

ダナン (ベトナム) における研究生生活 part2

Duy Tan University
Institute of Research and Development
Lecturer & Researcher of Physics

水山 一仁

mizukazu147@gmail.com

mizuyamakazuhito@dtu.edu.vn

1. はじめに

僕はベトナム中部にあるベトナム第3の都市ダナンの Duy Tan 大学で2018年の4月に講師(兼 研究員)として着任しています。以前に、核データニュース No.121 (2018年10月)で『ダナン(ベトナム)における研究生生活』を寄稿させて頂きましたが、意外にも様々なところから(核データ関係者以外からも)好評を頂きまして気を良くしていたところ、迂闊にも自分から核データニュース関係者に『依頼があれば書いても良いかな〜♪』なんて口走ったら当然のことながら”是非とも書いて下さい”という流れになってしまい、今回改めて続編を寄稿させていただくことになった次第です。

多くの方がご存知の通り、ベトナムは今や東南アジアで一番経済発展が著しく、ビジネスのみならず教育や研究など様々な分野で著しい成長過程にあります。そして、企業や大学などにおいて人材交流も始まっており、今後ますます日本人がベトナム人と接する機会も多くなると思います。ベトナム人と日本人は多くの共通した気質がある一方で、全く異なる気質や価値観もあります。そこで、今回は僕の大学における教育・研究活動を通じて知ったベトナム人の気質に着眼をおいて紹介の続編を書きたいと思います。

2. Duy Tan 大学 (DTU) における教育活動&研究活動

ベトナム人の気質に踏み込む前に少し大学の紹介を書きたいと思います。とはいっても、DTU の紹介は前回してありますので、今回は前回紹介していない情報だけ。うちの大学は学費が比較的高い私立(しかし、うちの大学はそれほど高い方ではないらしい)

ながら、さすが経済伸び盛りというだけあって、学生数はうなぎのぼりで今や2万人を超えたい（2019年現在2万7千人）です。あと、大学ランキングも（様々なランキングがあるのですが、その中の一つでは、国立大学なども含めた中で）ベトナム国内で2位になったりとか上り調子で、他の私立大学の追随を許さない感じの状況です。



写真1 日本語クラスの学生たち。試験の直後に撮ったのでリラックスモード♪

さて、僕はいま大学では日本語を教えています（笑）。ここに採用される際の面接で「日本語の授業を受け持ってくれるなら良い給料を出します」と言われたので”挑戦してみます”と答えたら、中級・上級日本語のクラスを任されてしまいました。ベトナムの大学では2セメスター制度をとっていますが、うちの大学では更に各セメスターを2つにわけて、前半・後半で、1クラスごと週2回、1回2時間、15回（およそ2ヶ月で計30時間）で一つの講座という感じで授業を行います。僕はこの1年半ほどで10クラスほど教えました。人数は1クラス大体20～40人程度なので既に数百人の学生を教えたことになりますね。

日本では担当授業のスケジュールやシラバスなどは事前にしっかりと決まっていますが、うちの大学ではそんなことは一切ありません。自分がいつからどこでどれだけの授業があるとか、どんな内容を教えなければいけないとか直前になるまでわかりません。ある日突然、大学のポータルサイトの自分のスケジュール表に授業日程が現れて、担当者は授業をやらなければならない。非常にシンプル（笑）。内容は授業が割り振られた後、直前になれば聞けば教えてくれます。でも、最初、誰に聞けばよいかわかりませんでした（笑）。そう、ベトナムは担当者もはっきりしなければ、担当者が知っている

も限らない。『はっきりしていることは何もない』のがベトナムです。でも、物事はスピーディに決まって進んでいくのもベトナム。不安だからといって前もってしっかり情報収集や連絡をしてもあまり意味を成しません。直前で物事の決定事項がいくらでも変更しうるのもベトナムだからです。ベトナムでは、臨機応変さが最も重要になります。



写真2 日本語クラスの学生たち。日本に紹介するのに写真を撮らせてくれと言ったら大騒ぎ（笑）

そもそも、日本語を教える経験は全く無かったし、ベトナム語は話せないのが当然、英語で教えるのですけれども...ベトナム人も一般に英語は苦手なんですよ。ましてや大学生...はい、最初は意思疎通もままなりませんでした。その中で、課題を出して、定期試験を行い、成績評価までしなければいけませんでしたからね。最初はもう本当にどうして良いのかわかりませんでしたけど、幸いベトナム人は人の目をよく見ますし、察するのが得意。こうなったらボディ・ランゲージだなと思いました。後は日本語の勉強に絡めた笑えるネタ。もう芸人になった気持ちで授業に挑みました。結果的には思いのほか上手くいきました（元々、僕は弟が重度の知的障害者なので、兄弟の会話にまともに言語を交わしたことなくありません。互いの共通言語のレベルが低い時の意思疎通の要は笑顔と共感です。その経験が生きました。最初は和気あいあいとした中で笑顔で身振り手振りの非言語コミュニケーション、楽しかったです）。

毎回、「はい！おはようございます！！」と笑顔で元気いっぱい挨拶をすると、学生たちも元気よく「オハヨウゴザイマース」と返してくれます。インターネットやプロジェクタも使えるよ、と聞いていたので使おうと思ったら、WiFiは遅くて使えない。プ

ロジクタも頻繁に何かしらのトラブル…。諦めて、最初は本当にそれこそ身振り手振りで動詞を教えたりしました。早口言葉を紹介したり、日本の歌を紹介して歌ったり、定型文のスピーキングでは、始めはゆっくり、徐々に早く…最後は早口言葉みたいに限界に挑戦させて…で、最後に僕が手本で限界スピードにチャレンジしたら見事に噛んでしまって、学生たちは大爆笑。飴を準備して、「あげます、くれます、もらいます」の使い方を教えたりするときに、実際に飴を「あげたり」、「誰に もらいましたか？」とか「誰が くれましたか？」とか尋ねたり…、出来が悪ければ「それじゃ飴あげることはできません」なんて言うてみたり…って、気がついたら、いつの間にかこんな難しい日本語やってるんですよ、1年もたたないうちに。

最近では、メールやフェイスブックのチャットで質問してきたり、単なるおしゃべりをしてくる学生もいます。あんまり暇じゃないので、単なるおしゃべりはちょっと…って思ったんですけど…日本語でおしゃべりしてくるんですよ（笑）。いや、もう、これは学生の勉強のために付き合うしかありませんよね。あと、ある授業の時に、一人見慣れない学生がいたんですが、まあ、「登録だけして滅多に参加しない学生もいるからな…」と意に介してなかったのですが、あとで本人から「実は私、DTUの学生じゃないんですけど、先生の授業の評判を知り合いから聞いて授業に潜り込んだんですけど、本当に面白かったです！また受けたいです」なんて申告が・・・（笑）。いや、まさか、学外の部外者まで呼びこむことになるとは思ってもみませんでした。



写真3 日本語の授業風景。学生に隠し撮りされてました。ちょうどよかったのでもらいました。

ベトナムでは毎年11月20日の教師の日に学生が先生に贈り物をして日頃の感謝を示すという習慣があります。1年目は、一人の学生がダナンのおみやげのマグネットをプレゼントしてくれただけでした。ところが2年目は、大きなケーキが用意され学生が先生の日を祝う歌を歌ってくれました。感無量でした。ただ、その後、「先生も何か歌ってください♪」と言われて、想定してなかったので焦りましたが腹をくくって、学生にも比較的日本語が聞き取りやすい「翼をください」を熱唱しました（笑）。



写真4 教師の日に学生からプレゼント。普通は花束とからしいのですが、何故か大食いがバレてて。。。。

研究活動面では、DTUでは核物理を専攻するコースも学生もいないのでフェ大学の大学院生2名ほどの学外指導教官、それからフェ大学が発行する科学論文ジャーナルのエディターを依頼されて引き受けています。大学院生の指導に関しては、スカイプやメールを利用しての指導や、たまにダナンに来てもらって1週間ほど滞在してもらって指導したりしています。が、フェ大学のカリキュラムがこれまたベトナム式ではっきりしないので、なかなか学生をダナンに呼ぶスケジュールが立てられない上に、最近受け持ちの学生に深刻な家族の問題や経済的な問題などが生じ、学生に色々と悩みも多いので最近では研究指導よりもそっちのケアの方が多い感じです。大学院生ともなると、国問わず、その指導方針や内容が学生の人生を大きく左右させかねないので、具体的な相談内容などは書けませんが、しっかりと学生と向かい合い、根気よく相談及び指導をしているという現状です。

最近、ベトナム政府からの科研費（2年で総額400万円規模）が通ったので、来年以降は更に忙しくなりそうです。ベトナムの科研費について少し説明しておきますと、日本では通常、科研費は主に国際会議の参加費やパソコンなどの機器、ポスドクなどの人件費に充てられますが、ベトナムでは使用用途は主に自分を含めたメンバーの人件費。ベトナムではまだまだ給与が安いので、研究者としての給与だけで食べていくことは出来ない場合が多いので、科研費で補填して研究に打ち込める時間を増やすことが主な目

的です。とりわけ、僕ら外国人には、彼らとの共同研究を主導することで、彼らの研究レベルの底上げが期待されています。なので、外国人がベトナムで科研費を取得する際にはベトナム人との共同研究実績が重視されます。あと、ベトナム生活に慣れ親しんでいるかも重要みたいです。ちなみに僕はベトナムで科研費を取得した二番目の外国人らしいです。



写真5 フェ大学の修士課程の学生。核物理専攻してる教え子です♪



写真6 フェ大学とデュイタン大学の原子核物理研究グループ

3. ベトナム人の気質

最近、多くのベトナム人が留学生や技能実習生として日本を訪れています。そんな彼らに対し、よく言われているのは「勤勉で真面目」だと思います。その評価に異を唱えることはしませんが、その表現が誤解なく日本人に伝わるかと言えば疑問、というのが、これまで彼らと接してきて得られた感想です。

まず、ベトナム人の気質と問われて僕が思いつくものを羅列してみます。

個人主義、情報をシェアしない、自分の感情に対して正直、極めて主観的、（平等ではなく）対等であることが重要、見下されることは大嫌い、競争という概念はない、損得勘定もない好きか嫌いか、自分の好きな目的に向かってチャレンジできるかが重要、色んな意味で継続性がない、計画性もない、でも、集中した時の集中力は驚異的、新しい物好き(ここで言う”新しい”とは流行の最先端とかではなく、彼らにとって新しい未経験、未体験のこと。他の事情は関係なし。”ベトナム人にとって”新しいとかそういうのでもありません。人それぞれ。)、慣れてないことに対しては適当に誤魔化す、慣れ始めると没入と言って良い集中力を発揮し、勤勉で苦勞を苦勞と思わない、色んなことに挑戦して、諦めては舞い戻り、の繰り返し。地頭は良いので、気がついたら一人で何でも出来るようになっている。諦めは早い、永遠の諦めではなく、何度でも再挑戦する。食べること大好き、おしゃべり大好き。哲学的思考、詩や絵画など叙情的・芸術的なものも大好き。察するのは得意。家庭では、男の子は叱らずに優しく育て、女の子は体罰をしてでも厳しくしつける、がベトナムの家庭教育。ベトナム社会は基本、性善説が大前提。無邪気にズルい。見た目が美しい形式は重要。ゼロからのやり直しをあまり苦とは思わない（短時間で終わりさえすればいい、終わらなかつたら一旦諦めて、後日、再挑戦。何度でも再挑戦）...こんなあたりですね。

3-1. 交通事情に現れる国民気質

ベトナムに住んでみると、とにかく平和で自由だと感じます。町中でどこのお店に入っても、大学で仕事をしていても、授業をしていても、とにかく平和で穏やかで明るいです。ベトナムというと一党独裁の社会主義国で個人の人権や自由はないのではないかと思っている人もいます。確かに、多くの外国人はビザ無しで長期滞在は出来ませんし、ビザ取得のハードルは低くはありません。逆に、ベトナム人が外国に行くのも同様です。ベトナムという国の出入りに関しては日本を含めた先進国ほどの自由はないといえは確かにありません。ただ、一旦、ベトナムという国の中に入ってしまうと、ルールはあつてないようなもの。人々は皆、個人主義的です。

このような気質の側面をよく表しているのがベトナムの交通事情。皆、バイクが大好きです。それは各々が好きなときに好きな所に行けるからなんですね。ベトナムの人たちはあまり皆で一緒に移動することはありません。交通ルールもあつてないようなもの。

交通量の多い時に街なかの交差点はいつもカオス。ただ、不思議なことに滅多に事故は起こりません。それもそのはず、基本的にバイクや車は時速30km未満でしか走っていませんし、誰も我先にと無理な追い越しをかけたり追い抜いたりすることはないからです。空いてるスペースがあれば突っ込んでいくし、追い抜けたと思ったら追い越します。でも、他がくればあっさりと譲ります。無理な割り込みや追い越しはしません。ただ、一方で、歩行者がいるからといって、自ら譲ってくれたりすることはありません。バイクも車も歩行者も、基本的に皆、対等です。ゆっくり交差点に進入し、先に進入した方に譲るのです。ここにベトナム人が「対等を好む」という気質がよく表れていると思います。歩行者であろうとバイクであろうと車であろうと関係なく道路では皆対等。それがベトナム。ベトナムでは皆、よくクラクションを鳴らします。日本などではクラクションは「どけよ！」とか「あぶない！」などと言うクレームの意味合いで鳴らしますが、ベトナムでは基本的に「今、自分はここを走っているからね」という、つまり、「自分の存在アピール」の意味で鳴らすことがほとんどです。なので、見通しの悪い交差点や住宅密集地の小道を走るときにもしょっちゅう鳴らします。自分の存在アピールはするけれども、他人を押しつけて追い抜いたりすることはありません。あくまで個々人がマイペースでゆっくりと、他人とぶつかりそうになったら、譲ったり避けたりします。これは交通事情の話ですが、ベトナムでは一時が万事こんな感じ。皆が性善説を前提とした適度ないい加減さと優しさで、皆が人として対等に過ごすことで心地良い雰囲気は保たれている国、それがベトナムといった感じです。



写真7 DTUの外国人スタッフ。アメリカ人、インド人、ベルギー人、ブラジル人、韓国人、日本人と国際色豊か。

3-2. 良い物は安い？

普通、日本などではクオリティの高い製品やサービスは値段が高いのが普通です。しかし、ベトナムでは違います。良いものは安いのがベトナム。そんなバカな、と思うかも知れませんが、ベトナムではそうなんです。普通、飲食店でもどこでもなんでも、

その店の店員が一番得意としているものが一番のウリであるはずですが、ベトナム人は「得意なこと」は「得意」とは思わないみたいです。むしろ、「取り立てて何も強調すべきことはないアタリマエのこと」なので、どんなにクオリティが高くとも高い料金はとらないのです。逆に、オプション的なもの、例えば、飲食店なんかではお客さんを増やすために後から追加したサイドメニューなんかは、元々、その店の人が得意じゃないものですから、クオリティと値段の釣り合いが悪い、つまりコスパが悪いのです。その店を初めて訪れる客からすれば、じゃあ、おすすめ教えてよって思うところですが、先にも言った通り、おすすめとなるようなものは店の人にとっては「当たり前過ぎておすすめする程でもない」、他方、サイドメニューは本来得意じゃないものなので、それもおすすめ出来ない。結果として、「おすすめは？」と聞いても大概、何も教えてくれません。金儲けしか考えてない店は一番高いものをすすめてくることはありますが、店の人に聞いて、その店の一番良いものをすすめられることは、まずありません。(まあ、それでも、最近は観光客商売の勉強をした若い人が増えてきているので、教えてくれる所も増えてはきていますが・・・)。わかりやすいのは、一番安いものか、地元客が食べているもの。もしくは、言葉が通じない(英語もベトナム語もできない)ふりして、流れで何となくすすめられるものが、その店のおすすめ(=店の人が本来得意とするもの)です。

ベトナム人は外国人とコミュニケーションがとれないと判断すると、“一番お客さんが満足するかもしれない”と考える選択を(勝手に)します。アイコンタクトや適当にうなずくのが一番です。逆に、ベトナムで一番やっちゃいけないのは、客の側からあれこれ注文をつけること。注文をされると、ベトナム人はいやいやながらも、お金のためにしょうがなく一生懸命、でも、出来る範囲でやります。ベトナム人がこんな感じで行うことで結果が良い試しはありません。お客さんは基本「受け身」になるのがおすすめです。満足したら、笑顔で褒めましょう。そうすると俄然やる気だすのもベトナム人。次から、その店では極上のおもてなしをしてくれる可能性があがります(気に入られれば...ですが(笑))。

3-3. 人として対等であることが何より大事

ちなみに、これは飲食店などのお店に限った話ではありません。学生などにも「あなたの得意な科目は何ですか？」と聞いても的を得た回答が返ってくることは滅多にありません。学生もまた「得意なことは出来て当たり前のこと」なので強調して言うべきこととは考えないからです。返ってくる答えは「(まだやったことはないけれども、自分が今やる気が最もある)やりたいこと」なんですね。ベトナム人は、たとえどんなに難しいことであっても、その人にとって“当たり前のこと”であれば、涼しい顔して黙々と黙ってこなします。面倒くさがるということはありません。こういう所が「ベトナム人

は勤勉で働き者」と言われる部分なのかなと思います。ただ、成績評価する側からすると困ることが多いです。本人たちは自分の優れた部分を自己アピールすることはないので、じっくりと観察しないとわかりません。これも他者に対して人として対等であることを重んじるベトナム人の気質からきているのだと思います。

対等を重んじる傾向は一緒に食事に行っても現れます。日本語学習に熱心な学生を何人か日本食レストランに誘ったことがあるのですが、日本食レストランは決して安くはありません。ましてや貧乏な学生にとっては非常に高価。しかし、奢られることを快く思う人はいないのです。そうは言っても、さすがに高いので押し切ってこちらが支払うと憚然として、「先生、次はこちらから食事に誘ってごちそうするので次は払わないでください！！」って怒った顔して言うんですよ。でも、そのあとに笑顔で「でも、今日は美味しかったです。ありがとうございました」。強情で、でも素直で真っ直ぐなベトナム人、大好きです。



写真8 大学の同僚の有志たちと忘年会

ベトナム人は本当に他との相対的な評価を考えたり口にするのを好まず、対等であるということを大事にするので、人から上から目線で何か言われたり見下されることをひどく嫌います。（なので、政府の偉い人とかは基本的に大嫌い。ベトナム人が中国人を大嫌いなのは彼らがベトナム人をあからさまに格下扱いしているからだだと思います。日本人に対しては、ベトナムにおける日本企業の取り組みを見ていると、日本以外の他国の企業はベトナムに資本と人材を投資してビジネスをやっているだけなのに対して、日本企業は技術や資本支援などはするけれども自立を促しているように思えます。ベトナム

ム人は色々と将来の自立に役立つことを教えてくれる教師を尊敬します。ベトナムにある日本企業やそこで働く日本人に対しては「色々と教えてくれる有り難い教師のような存在」なのです。だから、多くのベトナム人が日本に憧れて日本に行こうとしています。実際に学生に話を聞いても、「”お前は将来日本に行って働いて、たくさん色んなことを学びなさい。日本人の働きっぷりは見事でものすごく勉強になる”と親に言われて育った」と言う学生も少なくありません。

しかし、昨今、日本に技能実習生として働きに行くベトナム人を奴隷のように単なる労働力として扱う企業があることが問題になっています。ベトナム人はベトナムより日本の方がお金を稼げると行って行っている面もありますが、昨今、給料面だけで言えば日本よりもたくさんお金を稼げる国は他にもあります。つまり、日本に行っているベトナム人の多くは給料以外のことも求めて行っているのです。なのに、奴隷同然の扱いをされたら、ただでさえ上から目線で見下されるのが大嫌いなベトナム人のこと、ひどく失望して帰国する人が最近増えているのだと思います。ただ、失望するのは大抵、男子であるということを付け加えておく必要があります。なぜなら、ベトナムの家庭では「男の子は叱らずに優しく育て、女の子は体罰をしてでも厳しくしつける」のがベトナムの伝統。なので、女子は男子よりずっと根気も根性もあります。なので、日本で過酷な労働に耐え切れずに逃亡するのは男子が圧倒的に多く、逆に女子は倒れるまで働き続けてしまうといったことが起こるのだと思います。

3-4. 計画性はないベトナム人

ベトナム人に計画性はありません（笑）。これは本当です。ベトナム人に言うと、一応、否定はすると思います。でも、彼らの計画は計画じゃないんです。希望です（笑）。一番良い例えは、小学生の夏休みの予定表。やりたいことを書くことが計画だと思っているんです。計画の実現可能性とかは計画立案の際にはあまり考えない。やってみて、ダメならその時に変更をする。問題が起きたら、その時に解決策を考える。全てがこの調子です。色々と観察していたら、これはどうも典型的な南国気質ですね。日本は毎年必ず冬があります。近年でこそ、年中いつでも欲しいものを金さえ出せば手に入るようになりましたが、毎年、冬に備えて計画性を持って作物を育てたり備蓄したりしなければいけません。加えて、日本は地震や台風などの災害が多いので、常に「万が一」に備える必要があります。その上で、自分たちに何が出来るか、何があるのかを常に把握しておかなければならない必要性があります。対して、ベトナムは年中暖かいし作物もいつでもどこでも取れます。台風も滅多にこないし、地震もありません。近年でこそ、南シナ海の漁業権を中国に牛耳られて思うようにできないものの、基本的に海産物も豊富です。石炭、石油、天然ガスなどの資源も比較的豊富です。ベトナムにはお金以外のものは何でもあるのです。

困るとすれば、たまに豪雨による洪水の被害があるだけ。しかし、洪水と言っても、日本みたいに濁流のような洪水ではなく、緩やかに流れる川の水位があがって人々は家の2階以上で生活しなければならなくなる、と言った程度のものです。なので、ベトナムには細長い3階建ての家が多いですね。ダナンにほど近いホイアンでは観光ガイドはホイアンの”名物”として洪水を紹介します。「ホイアンで洪水が起こると水位は2 m以上にもなることがあるので、人々は2階に家具などをあげて生活しなければなりません。移動はボート。洪水の際には二階から釣り糸を垂らして釣りを楽しめます」なんて説明をするくらいなので呑気なものです（笑）。なので、万が一を想定した計画を綿密にたてるなんて概念がそもそもベトナム人にもないのは、ベトナムの有史以来の豊かさに起因するのだと思います。それでも、ベトナム戦争などが終結（※）し、近年の経済発展に伴い資本主義が生活の中に入ってきて、工業化も行われつつある昨今ようやく綿密な計画が必要になってきているのだと思います。計画性はないものの、元来、手先は器用で細かい作業は日本人顔負けくらい得意ですし、学問も細かいことを深く考えるのは非常に得意で、好きな人も多いです。なので、計画の立て方が身につけば飛躍的に伸びるのではないかと思います。ただ、もう少し時間はかかるでしょうが...

※ベトナムでは第二次世界大戦後も40年以上にわたって戦争が行われ、全ての戦争が終結し、戦後復興に動き出したのは1990年に入ってから。



写真9 忘年会でのひとコマ。今年、結婚予定で独身最後の忘年会でノリノリの国際交流課の女子1名（笑）。

3-5. 仕事の引き継ぎや情報のシェアをしないベトナム人

多分、ベトナムに住んでいる外国人が毎度辞易するのがこの点だと思います。ベトナム人は極めて個人主義。それはもう徹底したもので、組織における仕事でも同じ。仕事の仕方は人それぞれという感覚が非常に強いので、仕事をやめる場合でも次の人に引き継ぐなんてことはありません。情報のシェアもほとんどしない。なので、例えば大学の

授業の成績評価の手続きとか、役所でのもろもろの手続きなど、毎回、担当者が変われば変わってしまうのです。これには当のベトナム人も日々文句を言っている人がいるのですが...文句を言っている人もまた同じことをやっていることがあるのです。そう、自分のことは棚に上げているのです。まあ、それでも何とかなっているのは、ひとえにベトナム人は雑談が大好きだからだと思います。雑談の中で、何となくそれとなく情報がシェアされて、何となく事を進めてゆく。で、終わり良ければ全て良し。問題があればフレキシブルに全力で問題解決する。そんな感じ(笑)。あと、ベトナム人は肝心な一番大事なことを言わないところがあるんですよね。これは「当たり前なこと(得意なことなど)はわざわざ言わない」という気質と、何気に一応責任感強いが、ベトナムは何事もフレキシブルなので「大切なことだからいい加減なことは言えない」と思ってしまい、結果的に「言わない(言えない?)」になるのだと思います。まあ、あとベトナムでは一つの職に長く勤めるのは極めて稀であることや労働人口の平均年齢がまだまだ若い(※)せいで経験や知識が不足しているのも原因だと思います。いやあ...外国人は辛いというか、わけわかんないと思います。几帳面な人は堪らないでしょうね。

ちなみに僕はなぜか「ベトナム語を話せないベトナム人扱い」です。ベトナム人しか参加しない極めて内輪の飲み会には声かけられるし、場合によってはベトナム人の同僚すら知らない情報を聞かされてたり、とかもありますからね。とは言え、誰が何をどの程度知っているのかは誰も知らないんで、僕が知っていることが他と比べて多いかどうかは知りませんが、他の外国人よりははるかに知っている方なのだと思います。大体、フェイスブックの友達の数が増え方が異常です。ベトナムに来る前は140人程度だったのに今や495人。学生にももはや結構な有名人みたいで、たまに不意にダナンの街なかで学生から日本語で「せんせい〜♪」って手を振られます(いや、ダナンの街なかで迂闊なことできない(笑))。

一旦、打ち解け始めると指数関数的に友達がいつのまにか増えていくのがベトナムです。ただ、こっちが向こうを理解できないと、ベトナム人はいつまでも壁を作る傾向もある、これもまた事実だと思います。妻曰く、「ベトナム人と仲良くなると良いことしかない」。そう、店でも役所でも職場でも、顔見知りになって仲良くなると困ることは何一つなくなっていくのです。レストランに入れば注文する必要はないし、自転車修理に行ってもおっちゃんが勝手にやってくれるし、何もかも向こうのおまかせ。なのに、きちんとこっちの望み通り以上のことをやってくれます。ぼったくられることもありません。”身内”を騙すことは決してしないのです。というか、ベトナム人に悪意のある人は滅多にいません。そりゃ、どこの国でも悪人はいるでしょうが、他人を蹴落としたり落とし入れたり競争する概念がなく、ただひたすら人として対等であることを望むのがベトナム人。ベトナム人がシャイと言われるのは、その「対等な目線」を見出すまでどう接してよいかわからずに戸惑うことがあるからだと思います。ベトナムでよくある外

国人観光客からのぼったくり。これは「対等な関係がわからないよそ者」からほんの少しだけコーヒー代をせしめようという程度のかわいいものです（ただ、これはダナンの話。ホーチミンやハノイでは結構な額のぼったくりが横行しているようです。多分、経済発展に伴いお金の重要性が増してきているせいだと思います）。ただ、そういうことをするのは大抵、男です。ずるいことをするのも逃げるのも男ばかりで、女性は大抵、曲がったことが大嫌い。根性もすわってますし、働き者。ベトナム社会は女性が回している社会です（だから、余計にフレキシブルでもあるのかな？男は融通がきかないことが多いですから（笑））。

※ベトナムでは労働者の平均年齢は30代前半です。これはベトナム戦争の影響だと思われる。

3-6. 日本よりも民主的な社会??

ベトナムは1党独裁の社会主義国です。でも、ベトナムの政治体制は随分、他の社会主義体制と違うと思います。なぜなら、ベトナム人は「上から目線の一方的な命令」には決して従いませんから。それどころか、不満が募れば一斉に声をあげ始めます。大学でも同じ。基本的に大学や企業などの組織は日本とは違いピラミッド構造ではなく、組織の長というか責任者が上に数名いて、あとは全て皆、基本的に直轄です。で、基本的には上の人々の命令は絶対なはずなんですが...普段は皆、個人主義なくせに、不満が募ると一斉に文句を言い始め、上は発言を撤回せざるを得ないくらいにまでなってしまう。

そして、ベトナム国内は基本的に自由です。国家の大枠として、1党独裁の社会主義国家を標榜しているだけで、その枠の中身は極めて自由です。国境の出入りの部分だけ厳しくしているような印象です。まあ、競争が嫌いなので、米ソ対立に巻き込まれて起きたベトナム戦争の時に、「強いて言えば社会主義の方が性に合ってるかもしれない」程度のことで社会主義国になったのではないかと感じます。ベトナムは社



写真 10 建設中の DTU の新校舎

会主義でも資本主義でもないように思えます。ベトナム主義というべきなのかな…。民主制はとってはいいのですが、民衆の意見が社会で通るかどうかという観点に立てば、ろくに民意を反映しない選挙制度の元、低い投票率で決まった議員による議会で物事が決まって行って、それに対して誰も声をあげない日本よりずっと民意が反映されているような気がします。会社組織においても、日本では皆、リストラや左遷に怯えて言いたいことも言えずに理不尽な命令でも我慢して黙々と仕事をこなすのに比べたら、ベトナムの組織のほうがずっと風通しは良いと思います。

制度や法律、ルールはそれがないと民衆は誰も従わないということを前提にあります、つまり性悪説ですね。一方、制度やルールがあまりないのにうまく秩序が保たれている国や組織においても、当然、何をやっても良いということではなく、みんな程度をわきまえて行動することを前提とする、つまり、性善説ですね。日本は前者、ベトナムは後者だと思います。どちらが良いのでしょうかね。典型的な例は交差点の信号です。ベトナムでは大してみんな信号を守りませんが人はしっかり見えています、おばあさんや子供などがいたらきちんと避けます。一方で、日本ではみんな信号や交通ルールは守りますけれども、歩道を時間内にわたりきれなかったおばあさんが道の真ん中にいても、車の信号が青になったら結構お構いなしに進んでしまうのが日本です。日本人はベトナムに来ると、あまりの無秩序ぶりに怖いという人が多いですが、実のところは全く怖くないです。まあ、どちらもその本質がわかって慣れればどうってことはないと思いますけれども…。物理を知っている人なら言うまでもないことですが、秩序は効率をあげますが自由度を下げます。無秩序は効率を下げますが自由度は高い。日本社会で多くの日本人が「日々の暮らしに息が詰まる」と言います。これは秩序と効率を追い求めた末に自由度を失っていることからきていると思います。そして今、働き方改革を進めようとしています。



写真 11 最後におまけ。前回ホイアンを訪れた時に撮れた絵葉書のような奇跡の1枚。

ベトナムでは、今後、今以上に更なる経済発展をするために日本から多くのことを学ぼうとしています。客観的にみると互いに今現在ないものを追い求めているように思えます。そう、日本とベトナムは互いにないものを補え合える間柄ではないかと思うんですよね。なので、近い将来、人材交流や移民などを経て、互いにないものを得ることが出来たらどんなに素晴らしいことだろうと思う今日このごろです。

4. 最後に

ベトナムに来て早いものでもうすぐ2年がたとうとしています。2年住んでみて思ったことは、ベトナムは経済的、つまりお金の面ではまだまだ非常に貧しいものの、人々の心や環境、生活面では非常に豊かだということです。何気に計画性のない中で授業を持たされて、かつ、研究もともなると日々は思いのほかかなり忙しい。でも、適度ないい加減さと優しさの中で楽しく笑顔で過ごせています。既に触れましたが、日本人とベトナム人というのは互いにないものを補え合える関係だと思えます。近年、日本を含めた外国に留学や働きに出るベトナム人はどんどん増えてきています。僕の教え子たちも日本や海外に行きたいと言っています。既に日本を含めた海外に住んで働いたことのある人たちもたくさんいます（僕が住んでいるアパートのオーナーも日本に10年以上働きながら住んだことのある人です）。

今後は、そんな彼らと意見を大いに交換し、彼らの良さを尊重しつつ、何がベストな方法か模索しながらベトナム発展の一助に携われたら良いなと思います。今、ベトナムは日本の高度成長期に当たる時期です。社会の担い手の平均年齢もまだまだ若い。僕が所属している Duy Tan 大学も創立25年を迎えたばかりで、まだまだ伸び盛り。伸び盛りの社会、組織、人材の育成に携われるということは非常に教育者、研究者として本懐であると思う今日このごろです。ただし、全てが手探り、しかも、価値観も何もかもが違う異国の地なので大変なのですが、手探りも楽しいものです。僕は自然科学の研究者です。本来、自然科学研究とは手探りのようなもの。手探りを苦にしているのは研究もおぼつかないというものでしょう。僕は将来的にベトナムも自前の核データ評価なんかができるようになったら良いなと思っています。ただ、多分、「評価」というのはベトナム人が最も苦手とする分野（他との比較を特に良し悪しの観点でしないのがベトナム人ですから（笑））。でも、だからこそ、出来たらすごいなとも思っています。

と、まあ、思うところをざっとろくに校正もせず書き連ねてしまいました。思いのほか忙しくて、安請け合いをして少し後悔をしています。本当はもっと話を整理して伝えたいことはたくさんあるのですが思うように書けないまま、今回はここで一旦筆をおきたいと思います。お暇なときに少しでも楽しんで読んでもらえたら幸いです。あと何か質問がありましたら、いつでも気軽に連絡してください。